

平成28年 第1回教育委員会会議録

1 日 時

平成28年1月28日(木)

開会 14時30分

閉会 15時00分

2 場 所

教育委員会室

3 出席した委員

金田清委員長、橋正徹委員、中村健一委員、眞鍋知子委員、横山真紀委員、
木下公司教育長

4 説明のため出席した職員

金戸清外志教育次長、竹中功教育次長、齊田正活教育次長、
表純一教育次長兼教員指導力向上推進室長、平島敏彦教育次長兼教育振興推進室長、
脇田明義庶務課長、宮崎栄治教職員課長、小浦寛学校指導課長、
篠原恵美子生涯学習課長、浅田隆文化財課長、森山喜博スポーツ健康課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第1号 一般行政職員に係る平成28年4月定期人事異動方針
について

(原案可決)

6 報告案件

- ・ 「いしかわ学びの指針12か条」の改訂について

7 審議の概要

・ 開会宣告

金田委員長が開会を告げる。

・ 会議の公開・非公開の決定

議案第1号は、人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する
法律第13条第6項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・ 質疑要旨

報告事項 「いしかわ学びの指針12か条」の改訂について

(小浦学校指導課長説明)

資料の1頁をご覧ください。

先ず、改訂の経緯につきましては、平成23年の本指針策定以来、推進事業などを通し

て学力向上に取り組んでまいりました。

活用力の向上に一定の成果を上げているものの、依然、論理的・批判的思考力に課題が見られます。

また、学校間、年度間での学力の定着向上にもバラツキが見られるなど、学校の指導体制の不安定さも大きな課題になっております。

さらに、次期学習指導要領への円滑で効果的な接続を図るためにも、指導の改善・充実に向けた早期の準備・対応が求められております。

以上のことから、各学校、市町がこれから求められる資質・能力や教育活動の方向性を理解し、引き続き県内小中学校が同じベクトルで学力向上の取り組みを進めるために指針を見直し、さらに進化を図ることとしました。

次に主な改善点でございますが、先ず、第1条から第3条までの「活用力を高める授業づくり」については、第2条においてアクティブラーニングの視点を活かした授業など、これから求められる授業づくりの方向性を示しました。

また、第4条から第9条の「学力・学習を支える基盤づくり」については、特に第7条で新たにICTを効果的に活用することについて示しました。

最後に第10条から第12条の「指導改善を進める体制づくり」については、第10条において継続的な指導体制づくり、第11条で学力調査等を活かした学力向上PDCAサイクルの確立、学力向上ロードマップの策定・実施など、学校の組織的な学力向上推進の充実について示しました。

この後、各学校等へ事務連絡での通知を行うとともに、学力向上プログラムやスマートスクールネット等のホームページへの掲載によって各市町・学校へ周知する予定でございます。

【質疑】

(金田委員長)

5年前も3本立てでしたか。

(小浦学校指導課長)

3本立ては変わっていません。

(橋正委員)

基本的な部分を伺いますが、推進校の発表会というものを良く見聞きするのですが、これは全ての学校で取り組んでいるんですか。

(学校指導課長)

推進校を指定しておりまして、その指定校の発表を地場産業振興センターで全ての小中を集めてやっております。

(橋正委員)

指定校だけじゃなくて、全ての学校でこれに取り組んでいるんですね。

(学校指導課長)

そうです。

(橋正委員)

取り組みのルールみたいなものがあるんですか。

例えば、必ず取り組む項目があるとか、このうちいくつ以上選びなさいとか、何かそういうものはあるのでしょうか。

(小浦学校指導課長)

これは全体の指針でありますから、

(橋正委員)

これに基づいて全部をやりなさいということですか。

(小浦学校指導課長)

そうです。

(橋正委員)

報告は全て学校から全項目に渡って上がってくるわけですね。

(小浦学校指導課長)

全項目と言いますか、この指針を参考にして各学校の形で出てまいります。

チェック・改善もこれに基づいて行われています。

(眞鍋委員)

7に「主体的な問題解決のための効果的なICT活用の促進」が新たにつけ加わっているのですが、昨日、羽咋中学校と羽咋小学校の授業を参観させていただきました。現場の先生方がICT教育に取り組んでおられる様子を拝見させていただきました。

今、ICTの授業活用というのは、非常に過渡期の状況にあるのではないかなと、

途中でフリーズして授業が止まってしまっていて、結局コピーをしてあったものを見せるといった場面がありまして、使わなくてももっと上手に教えられるんじゃないかなとの印象を感じました。

ICTを現場に入れていくというこれはそういう流れではあるんでしょうけれど、先生方がそれを使いこなして授業づくりをするのはかなりのご負担でしょうし、ここの部分は、やりなさいと言うことだけではなくて、サポートをしっかりしていただきたいと、非常に現場の先生方も苦勞なさっている様子でしたので、是非、そういうケア・サポートというものを推進していただければなあと思います。

(木下教育長)

確かに授業の中で上手く使って授業の質を高めるという部分と、もう一つは子供たちがICT機器が普及した社会の中でメディアリテラシーをしっかり持っていかないといけないという意味合いでもこういった部分については、どうしてもやらざるを得ないといいま

すか。

OECDの様々な調査でも、全てパソコンを使った形での評価問題というふうになってきている方向性なものですから、

方向性としてはどうしてもこうなんですけれど、先生自身、子供たち以上にリテラシーが高いかどうかというところはなかなか難しい部分もございまして、特に教科指導の中で上手く質を高めるための活用の仕方という部分が、きっと多分、一番先生方の中で切磋琢磨してやらないといけない部分なのかなあと思います。

今、我々、スマートスクールネットというものをやり始めまして、先生方同士でいろんな情報交換を出来る形にしました。

その中でICTを活用した指導の方法の情報交換であるとか、そういう部分はしっかりやっていきたいと思ったり、研修でもしっかりやっていきたいと思ったりしますが、今少し時間がかかるのは間違いないですし、まあ形だけ使っているという先生も、チョークの代わりに画面に映したという。そこは結構お許しをいただかないといけない部分も確かにあるかなあと思っています。

(金田委員長)

先だつての小松高校の理数科の授業もそうでしたよね。

私は物理みたいな授業はICTだなあと見ていたのですが、最後の論理の展開をしていくときに生徒が黒板にわあっとしゃべりながら書いていまして、他の生徒達も理解していたし、先生も「そうだな。」と授業を進めていました。

一番難しいと思われる国語が一番入れやすいか知れないね。

教科書を、「那須与一」の部分をベタ写しに投影して、みんなで読んでいましたからね。

(木下教育長)

ICTもそうですし、アクティブラーニングもそうなんですけど、徹頭徹尾そのアクティブラーニングを1時間やりますというのではいけないということは間違いないですし、ICTの活用について言ってもその時に思いついたことを書くということはなかなか難しいわけですから、そこはチョークを使う場面もあればベタで写して子供に教える。ベタ写しの部分を先生がいちいちチョークで書いていると時間の無駄もあるかも知れないということですから、そこは織り交ぜてということになるんでしょうけれど、我々としてはもっと質を高める、授業の質を高める使い方をしてほしいなど、

きっと物理でも、立体図を動画で写して見せて理解させるということは非常に良いことなんだろうと思ったり、化学でも常時実験が出来るわけではないですから、実験を投影して子供たちに理解させる。そういったことは非常に有効な方法だと思うんですけど、どれだけ先生方が上手く活用出来るようになるかということで、過渡期であるということは間違いないですね。

(金田委員長)

難しい状況、様子でしたね。

先生も児童生徒も含めて少し混乱している。授業の進め方がね、

(木下教育長)

私が今やっているのは、i P a dを使うよりもプロジェクターを上手く使って子供たちに良い本物により近いものを見せていく、まずそういうツールとして上手く使ってほしいというのが第1ですね。

(金田委員長)

昨日、歴史の授業で市場の生業を生徒にビジュアルで見せていて、そういうところが今までと違うなあという思いで見えていたのですが、

(木下教育長)

そういうところから入っていくんじゃないかなあと私は思っているんですが、ちょっと先走ってi P a dを使って双方向でやりたいとなると、W i - F i環境を上手く設定しないとフリーズするなど様々な問題が起きてくるから、まあスキルの問題は出てくるでしょうね。

(金田委員長)

そうですね。それを使いこなすというのは、大変だと思いますね。

その学校に応じたいろんな考え方でやっていくという考え方の方が良いかも知れませんね。画一的に押し付けるとか、稼働率がどうだという捉え方ではなくて、先生方の独創的なものの中で使っていく方が良いと思いますね。

9なんかの学童保育というのは学校教育じゃないと思うのですが、学童保育では来る子供に宿題とかさせているんですかね。

(木下教育長)

学童保育の時間待ちの時間の活動としてやっても良いし、あれはあくまでも保育ですから安全に子供の居場所を確保することで、そういう考え方の中でプラスアルファ何をしてあげるかという視点なんですね。

そこに、きっとこれから幼児教育という視点を文科省も厚労省も言っていますので、今のところは、どう織り込んでいって新しい機能を置くかという話じゃないかなあと思っていますけど。

(金田委員長)

学校の先生をお辞めになった方だから、それはとやかく言う必要はないと思うのですが、どうも教えておられると言うか、まあ確かに「わからん。」と言われれば教えるでしょうからね。

(木下教育長)

サービスの一環でしょうね。

(金田委員長)

これまで5年間、石川県はこれで頑張っていて、特に小中では頑張っていたけど、また、さらに質的にも量的にもプラスされたと言うことで、次の5年間も学校現場は大変でしょう

けれど頑張っていたきたいと思います。

(金田委員長)

以降の審議について非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

(金田委員長)

人事担当教育次長以外の教育次長と、庶務課長及び教職員課長以外の課長の退出を促す。

議案第1号 一般行政職員に係る平成28年4月定期人事異動方針について（非公開）

脇田庶務課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

・閉会宣言

金田委員長が、閉会を告げる。